



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

夏号
2023

発行所 真宗大谷派 旭川別院
番 番 田 法生
〒070-0030 旭川市宮下2丁目
TEL.0166-22-2409
FAX.0166-22-2411

■印刷:植平印刷株式会社
■旭川別院ホームページ

旭川別院 | 検索

大行とは、すなわち

無碍光如来の名を称するなり。



北海道教区第十七組 幸福寺

楠 信 生

真宗の行

「行」には、造ること・動作・行為・実践・歩行・道・行列など様々な意味があります。今ここで、行としてたずねようとしているのは、さとりに至るための行、言いかえるならば、浄土に生まれる行についてです。親鸞聖人は、この行について明らかにするために御苦労くださいました。そして

大行とは、すなわち無碍光如来の名を称するなり。この行(ぎよう)は、すなわちこれらもろの善法を撰(せん)せし、もろもろの徳本を具せり。極速(ごくそく)円満す、真如(しんにょ)一実の功德宝海なり。かるがゆえに大行(だいぎよう)と名づく。

『教行信証』「行巻」真宗聖典一五七頁と著されたのです。このことの根拠として親鸞聖人は、まず『大無量寿経』の第十七願の文、「諸仏称名(しようみん)の願(が)ん」をあげられます。

『大経(だいぎよう)』に言(のたま)く、設(たと)い我(われ)仏を得たらんに、十方世界の無量の諸仏、ことごとく咨嗟(ししゃ)して我が名を称せずは、正覚(しようかく)を取らじ、と。

この願文の意味は、もし私が仏となつたなら、

ら、あらゆる世界の無量のもろもろの仏が、のこらずほめたたえて、私の名を称えるであろう。そうでなければさとりを開かない、ということなのです。

「ほめる」ことと 「名(みな)を称える」こと

「ほめる」ということから何を想像するでしょうか。私たちは日ごろ、他人をほめたり批判をしたりします。その場合、語っている自分自身のこととはあまり意識しません。自分が、実のところ、ほめたり批判したりしながら自分自身を表現しているわけなのです。むさぼり・いかり・ぐちに惑う人間がほめること、仏がほめることとは意味合いが異なります。もろもろの理法をさと、他者のすくいを求めて休むことのない仏がこぞつてほめたたえることを願うということは、もろもろの仏がなし得なかったあらゆる人々の平等のすくいを成しとげようとするからなのです。

蓮如上人の『御文』二帖目八通に
むなしくみな十方(じつぽう)三世(さんぜ)の諸仏の悲願にもれて、すてはてられたるわれらごときの凡夫(ぼんぷ)なり。

真宗聖典七八五・七八六頁

と説かれています。諸仏は最初から凡夫を見捨てていないわけではありません。諸仏の力をもつてしては凡夫をすくう手だてがないということなのです。法蔵菩薩はもつとも厳しい課題をになう菩薩なのです。人間の名誉欲(めいよよく)でほめられたいというところは、まったく異質なのです。「名を称(とな)える」とはどういうことなのでしょう。きびしく心身の鍛錬をして修行することにくらべて、ただ仏の名を称えるということだけでは、いかにも頼りない行為と感じられます。実践という意味で、道を歩んでいる感覚をもてないのではないのでしょうか。行とは、きびしい修行を意味するという通念に対して、いつでもどこでもただ「名を称える」ことで行の普遍的意義を仏みずから誓われ私に振り向けられたのが念仏の道であるのです。

仏の御名(みな)をきくひと

真実の教『大無量寿経』は、「仏の名号をもつて、経の体(たい)とする」と説かれます。「体とする」ということは、『大無量寿経』が名号の功德を説くことを経の本質とし、同時に名号自体が宗教の普遍的な基盤であることを意味しています。そもそも、仏教は智慧と慈悲で象徴されますが、阿彌陀仏とは無量の慈悲の仏(無量寿仏)であり、無量の智慧の仏(無量光仏)であります。その仏に帰命(なんみ)する仏道が、仏によつて誓われているのが名号(南無阿彌陀仏)です。言い換えるならば、「ただ念仏」をもつてあらゆる人々の「生まれた意義と生きる喜び」を満足せしめる仏道を説いた經典が『大無量寿経』です。

親鸞聖人は『唯信鈔文意』のなかで次のように語られます。

おおよそ十方(じつぽう)世界にあまねくひろまることは、法蔵菩薩(ぼさつ)の四十八大願(だいが)んの中(なか)に、第十七の願に、十方(じつぽう)無量の諸仏にわがなをほめられん、となえられん、となえられんとちかいたまえる、一乗(いちじょう)大智(だいち)海(かい)の誓願(せいがん)、成就したまえるによりてなり。

真宗聖典五五〇頁

「第十七の願に、十方無量の諸仏にわがなをほめられん、となえられん」とちかいたまえる」その内容は、如来が浄土を建立された願い、あらゆる人々をその浄土に往生せしめたいという願いの因果を「わがな(我が名)」に込められたことを意味しているのです。だからこそ第十七願「諸仏称名の願」が真宗における行の根拠として説かれるのです。

『大無量寿経』に次のように説かれます。たとい世界に満てらん火をも、必ず過ぎて要(もと)めて法を聞かば、会(か)なら(ず)当(まさ)に仏道を成(じよう)ずべし、広く生死(しようじ)の流(ながれ)度(ど)せん。

真宗聖典五一頁

「生死の流を度せん」とは、大きく荒い波にもまれて生き死にする流転のあり方から解放して、さとりの世界に導かれることを意味します。親鸞聖人は『和讃』で詠われます。

たとい大千世界に
みてらん火をもすぎゆきて
仏(ぶつ)の御名(みな)をきくひと
ながく不退(ふたい)にかなうなり

真宗聖典四八一頁

「仏の御名をきく」とは、ただ漫然と仏の名前を聞くことではありません。それだけでは力になりません。頭を悩ませこころ休まる暇のない、あたかも火の粉が飛んでくるような日常の中にあつて、心の深い要求の声を聞き、一步を踏み出して念仏の教えに出遇うことが、「仏の御名をきく」の意味でありましょう。さらに、その経験は、自分ひとりの力でなしうるものではありません。自分の先に悩み求めて念仏の教えに遇われた先達がいて、その人を通して初めて、私において「聞く」ということが成り立つのです。聞くことが、信と同義であるときれるゆえんでもあります。

法座・行事案内予定

8月

1日〜12日 盆参り
13日〜15日 午後1時 玉蘭盆会
18日 午後1時 婦人会
未定日 午後1時30分 あゆみ会 列座

9月

1日 午後7時 公開学習会
7日 午後1時 群萌の会
8日 午後1時 マヤの会
13日 午後7時 初心の集い 輪番
16日 午後7時 壮年の集い 輪番
18日 午前10時 婦人会 報恩講・お話し 輪番

10月

21日 午後1時30分〜3時30分 公開講演会 狐野 秀存 師
22日〜24日 午後1時 秋季彼岸会
未定日 午後1時30分 あゆみ会 列座

11月

1日 午後1時 公開学習会
7日 午後1時 群萌の会
8日 午後1時 マヤの会
13日 午後1時 初心の集い 輪番
16日 午後1時 同朋の会
18日 午後10時 婦人会
21日 午後7時 報恩講 実行委員会 列座
随時 午後1時30分 報恩講準備
未定日 午後1時30分 あゆみ会 列座

12月

1〜5日 旭川別院報恩講
1日 速夜〜3日 速夜
4日 晨朝〜5日 御満座
楠 信生 師

7日 午後1時 群萌の会
8日 午後1時 マヤの会
16日 午後1時 同朋の会
18日 午後1時 婦人会
18日 午後7時 壮年の集い
未定日 午後1時30分 あゆみ会 列座

お盆案内

お盆とは、正しくは「うらばん」といいます。『仏説孟蘭盆経(ぶつせつうらばんきょう)』から起こったものです。

お釈迦さまの十大弟子の一人に目連(もくれん)という人があります。目連が、神通力を得て三世(さんぜ)を観ました時に、痛ましいことに亡き母が餓鬼道(がきどう)に堕ちて苦しんでいることが分かったのです。

彼は深く悲しんで、直ちに、鉢に飯を盛って母に捧げましたが、飯は火炎と燃え上がり、どうしても食えることができません。目連は悲しみ「どうしたら、母を救うことができましようか」と、お釈迦さまにお尋ねしました。

その時、お釈迦さまは、「それは、そなた一人の力では、どうにもならぬ。飯、百味、五果などの珍味を、十方の大徳、衆僧に布施しなさい。布施の功德は大きいから、母は餓鬼道の苦難からまぬがれるであろう」と教えられました。

目連が、お釈迦さまの仰せに従ったところ、母は、たちどころに餓鬼道から天上界(てんじょうかい)に浮かぶことができました。

その由来から、毎年亡き人をご縁として、法要が勤まります。



八月十三日(日) 初盆者追弔会

八月十四日(月) 孟蘭盆会

八月十五日(火) 全戦者没追弔会

午後1時より本堂にてお経が勤まり法話がございます。

講師 第十二組 恵嶺寺 真栗 義丸師

輪番からのご挨拶



謹啓 猛暑の候 旭川別院
関係各位におかれましては、
益々ご清祥のこととお慶び申
上げます。

この度 二〇一九年七月より旭川別院輪番として拝命以来、早四年が経過いたしました。当初、四年間のつもりではございましたが、あらためて更に二年の延長をということで、謹んでお引き受けをさせていただきます。

もとより浅学非才の身と

重々承知をいたし、その重責を痛感いたしている次第ですが、今後とも旭川別院の護持興隆のため、微力を尽くしてまいり所存でございますので、何卒変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

関係各位の皆様には略儀ながらこの書面にてご挨拶とさせていただきます。

二〇二三年七月末

合掌

旭川別院輪番 太田 法生

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要
関東ご旧跡めぐり報告

四月十九日から二十二日

この度、別院門徒十三名・専然寺門徒九名・太田輪番御夫妻・スタッフ二名・合わせて二十六名で参詣致しました。新型コロナの影響もありましたが、本山では、盛大で厳かな法要が勤まりました。

またなかなか拝観できない親鸞展、さらにはご旧跡と、親鸞聖人の恩徳を改めていただいた法縁でありました。



本山で旭川別院門徒と記念撮影

秋季彼岸会

令和五年九月二十二日(金)〜二十四日(日)

亡き人からいただいた尊いご縁に出会う大切な行事

旭川別院では、春と秋のお中日(春分の日、秋分の日)に彼岸会法要をおつとめします。

彼岸とは、覚りの世界「浄土」という意味です。古来より日本では、春秋の太陽が真東から真西に沈むすがたを見て浄土を想うという中国からの伝統を受け継ぎ「彼岸会(ひがんえ)」という仏教行事を営んできました。

本願寺第八代の蓮如上人は、春秋彼岸を「昼夜の長短なくして、暑からず寒からず、(中略)仏法修行のよき節」だと述べられました。亡き人を偲ぶ事を通して、亡き人と出遇いなおし、そして自分自身の帰すべきところを定めよと呼びかけておられます。

午後1時より本堂にてお経が勤まり法話がございます。

講師 滋賀県湘南市 松本 良平師

公開講演会・暁天講座報告

■七月五日(水)午後六時

公開講演会 大谷ホールにて

■七月六日(木)午前七時

暁天講座 本堂にて

「南無阿弥陀仏」〜人と生まれたことの意味をたずねていこうの
講題の元、神奈川県長瀬市・海法龍先生にご法話頂きました。

公開講演会・暁天講座とも御聴聞ありがとうございました。



法 仏
あ れ
こ れ

身近な仏事

お内仏

皆様のご家庭に安置されているお仏壇について、「お内仏」という表現を耳にしたことはありませんでしょうか。「家庭内の持仏堂」ということで「お内仏」と言われています。持仏堂とは、念持仏という室内に安置、もしくは身につけて常に崇敬・礼拝する仏像を安置するお堂のことです。お仏壇の前に身を置き、手を合わせ

られたご先達のお姿が「お内仏」にはあるのでしょうか。
学生時代、輪読会でお世話になっていた先生から、「仏像の展示があったとしても、拝む人がいなければ、仏像は仏像でなくなってしまう」と教えていただいたことがあります。拝む人がいなければ、仏像であつても単なる宝物の展示になってしまうということでしょう。先生のこの言葉は、「自身の在り方はどうであるのか」「仏像を仏像でなくしているのではないか」と私に問いかけてきます。
「お内仏」は日々の生活の中に開かれていく拝む場であり、仏様と出会う場です。そこには「ありがとう・おかげさま」と、お念仏の教えに生きた方々の願いがあり、私に「お念仏もうせよ」と呼びかけています。
最近、私の甥がオジギソウを育てています。オジギソウはその名の通り、触れるとお辞儀をするように葉

を閉じる植物です。様子を見ていますと、ただひたすら深く頭を下げるのです。そのオジギソウの前に、人から頭を下げられ、拝まれる人になりたいと思うような傲慢な私がい

(水上)



大谷婦人会日帰り研修旅行の御案内

大谷婦人会報恩講の御案内

日 時 九月十八日(月) 十時より
内 容 お勤め・ビデオ上映・法話(太田輪番)
*お斎(昼食)をいただいで解散
*志納金 二千元
*申し込み方法 九月十日迄に別院の大野・井畑迄連絡下さい。

日 時 十月六日(金) 集合十時 別院
行 き 先 最照寺(幌加内町)参詣・竹久夢二展観覧(旭川美術館)・昼食有り
集 合 場 所 旭川別院
会 費 二千元
申 し 込 み 方 法 九月十八日の報恩講迄に大野・井畑迄連絡下さい。
*詳細は九月十八日の報恩講にお知らせします。
*別院門徒の女性の方は、全員婦人会員ですので、いずれの参詣もお待ちしています。

令和5年 公開講演会案内

演 題 南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

日 時 九月二十一日(木)

午後一時三十分〜三時三十分

会 場 旭川別院本堂



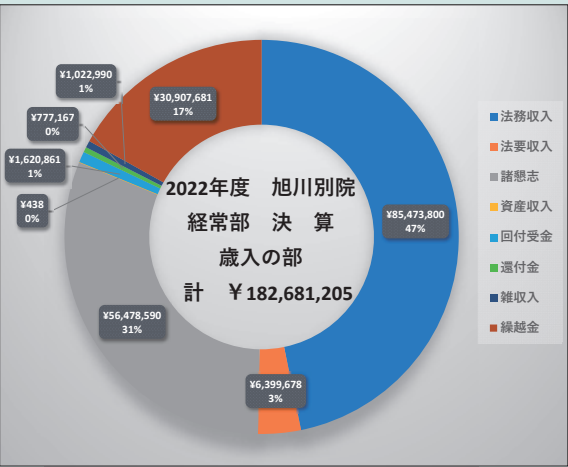
講師 狐野 秀存 師
(元大谷専修学院学院長)

※聴講無料。どうぞご参詣下さい。

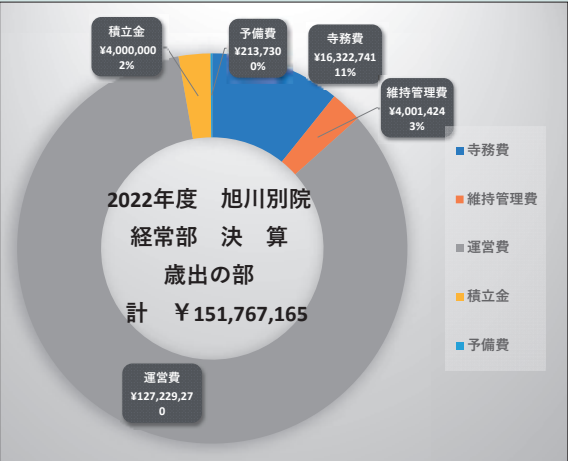
2022年経常会計決算並びに2023年度予算

<2022年度決算>

2022年度歳入決算	
法 務 収 入	¥85,473,800
法 要 収 入	¥6,399,678
諸 懇 志	¥56,478,590
資 産 収 入	¥438
回 付 金	¥1,620,861
還 付 金	¥777,167
雑 収 入	¥1,022,990
繰 越 金	¥30,907,681
合 計	¥182,681,205

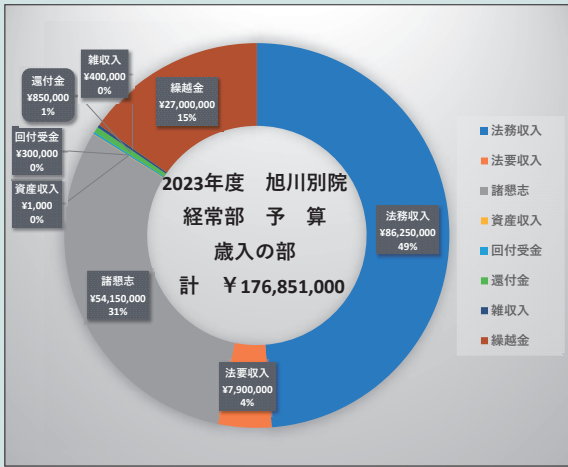


2022年度歳出決算	
寺 務 費	¥16,322,741
維持管理費	¥4,001,424
運 営 費	¥127,229,270
積 立 金	¥4,000,000
予 備 費	¥213,730
合 計	¥151,767,165

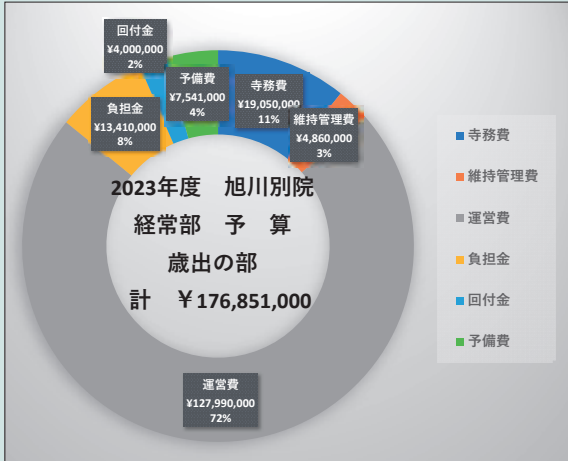


<2023年度予算>

2023年度歳入予算	
法 務 収 入	¥86,250,000
法 要 収 入	¥7,900,000
諸 懇 志	¥54,150,000
資 産 収 入	¥1,000
回 付 金	¥300,000
還 付 金	¥850,000
雑 収 入	¥400,000
繰 越 金	¥27,000,000
合 計	¥176,851,000



2023年度歳出予算	
寺 務 費	¥19,050,000
維持管理費	¥4,860,000
運 営 費	¥127,990,000
負 担 金	¥13,410,000
積 立 金	¥4,000,000
予 備 費	¥7,541,000
合 計	¥176,851,000



幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

新年度が始まり、新しく入園した子ども達、進級して新しい場所や先生と出会った子ども達は、一人一人のペースでゆつくりと幼稚園の生活に慣れてきました。豊かな自然環境の中で、春から夏への季節の移り変わりを心と身体でたっぷりと感じています。

クラスの様子

*0歳児 ひよこ組



お天気の良い日は、外気浴。お花や鳥など色々な自然の物に興味を持ちます。

*1歳児 りす組



木のかげから「ばあーっ！」

*2歳児 つばき組



セロファン紙の影は、自分の影と違うことに気づいたようです。

*3歳児 こあら組



色のついた氷が溶ける様子を不思議そうに見つめています。

暑い日には水に触れて遊びます。

*4歳児 ばんだ組



きりん組のお姉さんがダンゴムシの居場所を教えてくださいました。真剣な眼差しで見えています。



デッキはキャンパスに变身！お水でお絵描きをしています。



雨が降るとわくわくするばんだ組の子ども達。雨水を集めて、こいを繋げて流してみたり、泥水でチョコレート工場ごっこが始まります！



食育活動

大谷の杜の畑では、クラスで考えて話し合って決めた育てたい様々な野菜が育っています。



枝豆を植えました。「早く枝豆たべたい！」と待ちきれない様子です。



草取りも大切なお仕事です。



七ツとうめん



ケロケロカエルランチ

☆季節のお楽しみ給食☆

5歳児 きりん組の活動

毎日のサークルタイムで一人一人が自分の気持ちを話せるようになってきました。やりたいこと、行きたいところなどを、話し合って決めています。



『神楽岡公園』



『旭山動物園』



『新町小学校の運動会総練習見学』

「お花畑を作りたい！」という気持ちから、庭を耕して畑を作ることに…。小さかった種が、毎日お水をあげるとすくすく育ち、可愛いカッパルなお花を咲かせています！



ご門徒の声

心の中の闇と光

門徒
藪越百合子



私は、念仏を忘れず阿弥陀さまを拠り所として生活をしています。が、十ヶ月前、お寺に行かなくなり、毎月出席していた例会にも出なくなりました。

「私は、仏さまを信じているのだからそれでいい。」と頑なに思い、固い殻の中にこもってしまいました。

お寺に行かなくなると、一年程して、ちよつとしたきつかけで、またお寺に行くようになりました。その時の私は、卵の中のひな鳥が外へ出ようと殻をつついて壊すように、少しだけ自分の殻を壊してみようとした。すると、壊れた殻の隙間から光が入ってきました。眩しい程の光なのに、目が痛くなるような眩しさではなく、明るいやさしい光でした。

私は、殻の中に入ってきた光で、自分のいる所が暗いことに気がつきました。「仏さまを信じ念仏を忘れていなかったはずなのに、自分は暗闇の中にいたんだ。」と初めて気がつきました。

ある例会で列座さんが言っていました。「自分ひとりで信じてみただけ。それを紐解かなければいけない。」と。その言葉を今更のように思い出しました。

今年の三月に、親鸞探検隊で本山に行き、親鸞聖人の御真影の前で帰敬式を受けた時、私の中の固い殻が全て壊れたのを感じました。まわりは、明るい光で満ちていました。それでも私は、自分の足元の殻にしっかりとしがみついていたのです。これが執着心というものではないのか。

疑い深く欲の強い私は「自分が、自分が…」という気持ちが少しもなくならない。そんな私を仏さまは、見捨てず守ってくれています。わがままな私は、お寺に足を運びしっかりと聞法に励まなければいけないと思いました。

うどんダ

幼稚園児にお話をしました。「いのちをいただく」という絵本を紙芝居にしました。少女と共に育った牛のいのちを解くという実話です。解くとは殺すという意味だそうです。

子供たちには少し難しかったかもしれませんが…。振り返ると、毎日あたりまえの様に、何らかのいのちがあるものを頂いています。

しかし、口に入る時にはすでに死んでいて、ほぼ原型をとどめず、いのちがあるものと見れなくなっています。いつの間にか、いのちに対して鈍感になっていきます。

私たちは、今日まで生きてきて、どれだけのいのちを頂いてきたのでしょうか。またこれからどれだけのいのちを奪うのでしょうか。どのいのちも、私の為に食べられても良いといういのちは無いはずなんです。

たしかに、人は食べないと生きていけません。でも、あたりまえでなかった、ありがとう、ごめんね。というところを見失う事は、人としてのこのころも見失っているのかもしれない。(北田)

真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とのお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいた葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされたい方は是非ご利用ください。



使用料 (葬儀・会場費込)

- 各広間 …………… 100,000円 (税込)
- 大谷ホール …… 150,000円 (税込)

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409